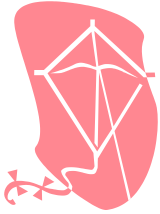


# 平成 25 年 K L W V 新年会



平成25年1月25日、神戸の北野坂にあるホテル六甲荘において、37名が集い華やかな中にも凜とした雰囲気の中、和やかな新年会が開催されました。ご挨拶を披露させていただきます。

## 兵庫県選挙管理委員会

### 委員長 武田丈蔵 様

皆様方におかれましては、平素より明るい選挙の推進に向けて、格別のご協力を賜っておりますことに、心から厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年12月に衆議院議員総選挙が実施され、神戸婦人有権者連盟の皆様にも街頭啓発にご尽力いただき、有権者に投票参加の呼びかけを実施いたしました。一番気にしておりますのは、県内の投票率ですが、58.59%と、戦後の衆議院議員総選挙で2番目に低い投票率となっております。心を痛めております。これまで期日前投票の導入をはじめとする改革が進められ、投票環境の整備が進んでいるにもかかわらず、残念なことに、少なからずの有権者が投票に参加していない現状にあります。

改めて申し上げるまでもありませんが、選挙は国民が政治に参画する上で最も重要かつ基本的な機会であり、民主主義の基盤をなすものであります。したがって、有権者の投票総参加を実現するた

めには、有権者一人ひとりが選挙の重要性を認識し、常に政治への関心を持ち続けていただくことが肝要であると考えております。

私としては、政治への関心を有権者が持ち続けることに加え、それを投票行動にどう結びつけるのかを考えていくことが重要と考えております。その意味で、貴連盟におかれましては、毎月、自主的に勉強会を開催されるなど常に社会や政治の動向に目を向け、日々研鑽を積み、また、選挙の際には、有権者に対する投票総参加の呼びかけ、候補者に対する選挙違反の防止を目的とした要望書の提出など、積極的な活動により、明るい選挙の推進に向けて特に大きく貢献しておられるところであり、深く敬意と感謝を申し上げます。

県選挙管理委員会といたしましても、投票総参加・違反のない公正な選挙を目指して、引き続きあらゆる機会をとらえて啓発活動に取り組んでまいり所存でございます。どうか、各地域でリーダーシップを発揮しておられる皆様方におかれましても、格別のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

とりわけ、本年は7月に任期満了を迎える兵庫県知事選挙と参議院議員通常選挙が予定されております。引き続き皆様方と一層の連携を深めつつ、皆様方の格別のご協力を重ねてお願い申し上げる次第であります。

最後になりましたが、神戸婦人有権者連盟の今後益々のご発展と本日ご出席の皆様方のご健勝を祈念いたしまして、甚だ簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます

### 神戸市選挙管理委員会

委員長 福浪睦夫 様

皆さん、おはようございます。

就任しまして初めて、昨年暮れに衆議院議員総選挙が執行されました。

神戸市での平均の投票率は、56.4パーセントくらいだったと思いますが、残念ながら、前回よりも8パーセント低下しました。

私は北区に住んでいるのですが、北区の投票率は57パーセントでした。気になりましたので、投票所ごとの投票率を調べてみますと、場所によって大きな差があることが分かりました。44パーセント程度と、極端に低いところが、4か所ありまして、ここはどんなところだろうと、実際に車で現地を見に行きました。物理的に投票に行きにくい状況であれば、これは、選管の責任というところもございますので、見に行きたいです。そして、北区の選管に改善

するよう指導したところでは。

私は、投票率の結果が公表されているのを、あまり目にしないのですが、皆様はご覧になったことがおありですか。神戸市では東灘区が一番高く、最低が中央区です。このような結果を分析して、今後に活かすことが必要なのかなと思っています。

皆様方は、様々に啓蒙啓発の活動をされていて、その取り組みに敬意を表します。

今後一層の、ご活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

本日はありがとうございました。

神戸婦人有権者連盟 顧問

神戸学院大学元学長

谷口弘行 先生

新年おめでとうございます。

今年も、みなさんにとって、いい年でありますことを祈念いたします。

私たちが日々暮らす社会や世界は、次々と解決を必要とする問題を醸し出しています。私たちは、終わりのない挑戦を突き付けられているように思われます。

そして私たちは、その時々にもっといいと思う解決方法に向かって努力してきているはずで、しかし人々の考えるもっといいと思うことの間には、常に大きな幅があるものです。したがって、社会が未来に向かって前進するには時間がかかり、しかもその

進み具合は微々たるものです。

問題が複雑すぎたり、毎日の生活に追われているとき、私たちは一挙に問題を解決してくれそうなヒーローの出現を期待し、それに身をゆだねようとしがちです。しかし人々が熱狂の中で決めたことは、歴史の中では、往々にして間違ってきたことが多くあったはずで

みんなが参加できる熟議とその後の迅速な実行、そして検証の繰り返しは、個人の問題でも、国家、国際社会の問題でも、同じように必要なことだと思います。時には退屈で、時間のかかることかもしれません。私たちは、それに対してどれほどがまん強くなければならないかを、いつも痛感させられています。それが、民主主義というものだと思います。

### 神戸婦人有権者連盟 顧問 伊庭文子 様

今年も皆様とご一緒に集えましたことは大変幸せでございます。1921 年生まれですので、今年で 92 歳になりました。口だけは元気なのですが、足が弱ってきてさっさと行けなくなりました。しかし自分では元気なつもりです。今年も 9 人そろってお正月を迎えました。孫の記憶にしっかりと残るように私は 96 歳まで生きたいのです。

昨今を振り返ってみますと何と目まぐるしい世の中の移り変わりでしょう。政治

面、経済面それぞれいろいろな事件に遭遇しました。マスコミのメディアからは多くの知識、体験を受けております。私たちの政治に対して国に参与するということは選挙を正しく理解することだと思います。

一人ひとりが、「何が正しいのか」という判断力を身につけ世の中の情報をどれだけ把握できるのかという事が、女性としての日本の国に参画できる近道だと思われ

ます。しかし最近のマスコミはバラエティが多くて情けないです。もっと知的な番組が多くなるように放送局に要求したいのです。

私たちは大いに勉強して意見を闘わし行動する力を養って、健康で共にがんばって有権者連盟を盛り立ててまいりま

しょう。それには、一人でも多くの皆様に広く呼びかけて、存在ある意義あるこの会の輪を昂め広げること

### 神戸婦人有権者連盟 顧問 洒井和子 様

新年おめでとうございます。年の初めは自らの人生をみつめ直し、一年の目標を定める機会だと思います。ともうしますのは私もおいを感じる年となったせ

いだと思います。憲法の父と言われた尾崎弴堂も「人生の本舞台は、常に将来にあり」て言っております。どんな小さなことでも、何か目標を持ち社会とつながっていくことは、個人に

も、社会にとっても大切なことと思います。その意味でもこの神戸婦人有権者連盟に参加し、さやかながらも、貢献しているのは、幸運なことと思います。

扱て、世の中は混沌としております。日本の抱える問題や難問が毎日のニュースに流されております。自民党圧勝で政権は交代し、新しい国家運営も始まっております。原発問題、テフル、雇用、環太平洋連携協定(T P P)、消費税に加え、基地問題、領土、海洋資源、グローバル経済、外交問題、国防軍の保持、憲法改正までちょっと考えただけでも、大変です。日本の危機を感じます。一方 i p s 細胞研究拠点を神戸婦人有権者連盟に整備する再生医療の産業を加速させる動きは評価次第したいです。

今年の夏は、参議院議員の選挙があります。投票率が気になり、今年こそ一人ひとりが厳しい選択をするときです。私たちは、日本の未来、将来を托せる方真剣に考え投票し、明るい未来につなげていかななくてはならないと思います。

ご立派な講師の先生方のお話を聞くことが出来、楽しみながらより良い社会を作るため勉強致しましょう。

新しい年に若返りたいと思っております。ご挨拶とさせていただきます。

## 第 46 回衆議院議員総選挙の 投票率の状況と不在者投票制度 について

兵庫県選挙管理委員会書記  
木村剛志 様

私の方からは、昨年 12 月 16 日に行われました、衆議院議員総選挙の投票率に関するお話しと、不在者投票制度のお話しをさせていただきます。

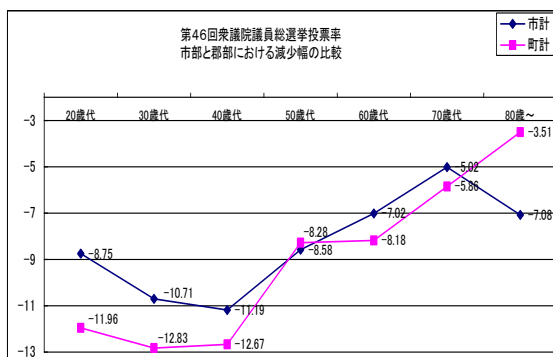
まず、昨年 12 月 16 日に行われました衆議院議員総選挙の投票率ですが、前回の平成 21 年 8 月の選挙と比較して、県内すべての市区町で投票率が減少し、県全体では 58.59%となりました。これは、小選挙区制度が導入された平成 8 年の選挙に次いで、2 番目に低い水準となりました。全国でも同様に投票率が下がっており、59.32%で、最も投票率が低かった平成 8 年の水準を下回り、過去最低の投票率となりました。

この状況をもう少し詳しく見るために、県内の各市区町から、それぞれ平均的な有権者を有する投票所を抽出し、投票率を年齢別に出してみました。そうすると、市部・郡部とも、すべての年齢層で前回の平成 21 年 8 月の選挙よりも投票率が減少しています。特に 20 歳代～40 歳代が大きく減少しており、20 歳代、30 歳代、40 歳代と、年齢が上がるごとに減少の幅が大きくなって

います。

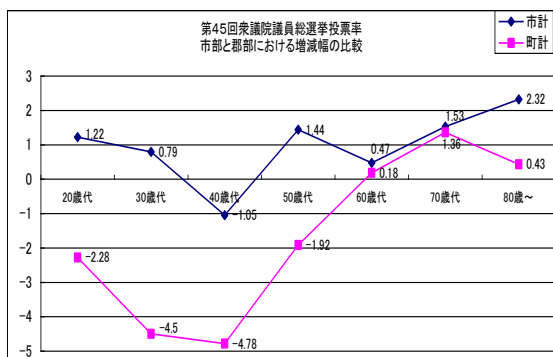
この減少幅を市部と郡部で比較した場合、50歳代は、市部と郡部でほぼ同程度の落ち込みですが、40歳代、30歳代と、年齢が下がるごとに、市部と郡部の落ち込みの差が拡大していっています。逆に、80歳代は、市部の落ち込みが大きい一方、郡部の落ち込みは小さくなっていました。

(図1)



ちなみに、前回、平成21年8月の衆議院議員総選挙ですが、県全体としては投票率が増加しましたが、20歳代～40歳代を見ても、20歳代、30歳代、40歳代と、年齢が上がるごとに増加の幅が小さくなっていました。特に郡部の20歳代～40歳代は2ポイントから4ポイントほど、投票率が減少していました。

(図2)



これらは、抽出調査ですので、必ずしも正確なものとは言えませんが、20歳代から40歳代、つまり、若年層から青年層にかけての啓発が重要であるということと言えるのではないかと思います。

この場合、2つの方法があります。

1つは、期日前投票、もう1つは不在者投票という制度です。

期日前投票は、かなり制度として定着してきていて、おそらく、皆様方のご存知だと思えますが、要するに、公示日の翌日から投票日の前日まで、市区町役場などに行って投票することができる制度です。

もう1つの不在者投票ですが、6つほど制度がありますが、限られた時間ですので、特に、今日は、「滞在地投票」という制度をご紹介します。

これは、住民票のある市区町以外の市区町で、公示日の翌日から投票日の前までに投票することができる制度です。その手順ですが、例えば、出張で別の市区町にいるという場合であれば、

- ① まず、住民票のある市区町の選挙管理委員会に電話連絡していただき、お仕事で滞り場所の最寄りの選挙管理委員会へ投票したい旨を伝えてください。そうしますと、「不在者投票の請求書」という様式がその選挙管理委員会から送られてきますので、必要事項を記入のうえ、返送してください。
- ② 次に、その選挙管理委員会から投票

用紙と封筒、「不在者投票証明書」の3つがその滞在所に送られてきますので、それらを持って、投票される選挙管理委員会に行ってください。

- ③ 投票する選挙管理委員会では、不在者投票管理者等の立ち会いのもと、投票用紙にご記入いただいた上で、その投票用紙を持参いただいた封筒に入れ、投票管理者に渡していただくことになります。この封筒ですが、投票の秘密を守るため、内封筒と外封筒の二重で封印することになっています。
- ④ この厳重に封印された投票用紙入りの封筒は、責任をもって、住民票がある選挙管理委員会に郵送されて保管されます。そして、投票日当日に、投票管理者が封筒を開いて投票箱に投函します。

このように、「滞在地投票」の制度は、お住まいの市区町以外でも投票することができる制度ですが、投票日当日に投票できない理由がレジャーであっても、例えば、滞在先のホテルに投票用紙を送ってもらい、投票日の前日までに滞在地投票をすることも可能です。お知り合いの方で、このような方がおられたら、是非、紹介していただければと思います。

本日は、選挙啓発ということでお時間を頂戴してお話をさせていただきましたが、本年は県知事選挙と参議院議員通常選挙が予定されております。引き続き、神戸婦人有権者連盟の方々と連携して選

挙啓発を行っていきたいと思っておりますので、何卒、よろしく願いいたします。

本当に簡単ですが、私のお話しは終了とさせていただきます。

皆様、ありがとうございました。

## 神戸市選挙管理委員会主査

木下忠光 様

皆さんおはようございます。

先ほどからお話にありましたように、昨年の暮れに衆議院議員総選挙が行われました。急な解散で、準備期間も短く慌ただしい中での選挙になりましたが、なんとか無事に執行することが出来ました。これもひとえに皆様方のご協力のおかげと思っております。

ありがとうございました。

衆議院選挙が終わりまして、実は少しほっとしております。と言いますのも、県の委員長さんや木村さんの話にもありましたが、今年の夏には県知事選挙と参議院議員通常選挙が任期満了に伴い行われます。神戸市はそれに加えて、秋に神戸市長選挙が予定されるなど、選挙の続く節目の年になっています。

昨年夏以降に衆議院の解散時期が話題になっておりました、場合によっては任期満了の8月30日まで引っ張って、衆参同日選挙などという話もございました。衆参同日に加えて知事選挙となると、投票所の運

営ひとつとつてもどのようにしていけばいいんだろなんて、戦々恐々としていた我々事務方にとっては、取りあえず衆議院選挙が終わってほっとしたというところでございます。

残念ながら、投票率は前回に比べて8パーセント下がってしまいました。特に低い傾向にあると言われる、若者層にどのように啓発していくのが課題だと思っております。

そんな中、指定都市の会合で話題になったことを紹介したいと思います。

皆様の中にも記事をご覧になった方がいらっしゃるかもしれません。

去年の11月に京都の京都教育大学の生協がいつもは20個発注するプリンを、誤って200倍の4000個発注してしまった。困った生協は近隣の大学生協にもお願いして販売していたところ、それを知った学生が、生協が困っているらしいということで、ツイッターでプリンの購入を呼びかけたところ、その学生だけでなく、他の大学の学生にも拡がって無事に完売できたという記事です。

この記事から、最近では学生など若い人は、ツイッターとかフェイスブックなどのSNSを使っている人が多く、また、そういうツールを使った情報は拡がりやすいということで、なんとかそういうものを啓発などに活用できないかということをお話していました。

学生は、地元に住民票を置いていて下宿

先には移していないケースが多く、投票するには、不在者投票を利用する必要があるのですが制度を知らない。ということもありますので、こういった情報を提供するツールとして考えみてもいいのではないかと思います。実際に、実施するにはいろいろと難しい問題もあるとは思いますが。

安倍首相が、今年の夏の参議院選挙までにネット選挙の解禁に意欲を持たれているということも、新たな啓発手段を考えるうえで期待しているところです。

なにはともあれ、ことしは大きな選挙が3つあります。皆様方には、改めてご協力をお願いし、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

(文責 福家)

